

高山植物の覚え書 II

清水 建美

T. Shimizu: Occasional notes on alpine plants II

5. タカネヤハズハハコ *Anaphalis lactea* Maxim.

— *A. alpicola* Makino

前報で、日本特産とされているタカネヤハズハハコは、中国の *A. lactea* と同種だろうと述べた。このほどハーバード大学のグレイ・ハーバリウムから、次の4点の標本を借用することができ、検討したところ、やはり重要な相違点はみつけることができなかった。

Kansu: Ta Hwa, near Pingfan, 2900~3100m, R. C. Ching 532, July 17, 1923.

— : Kar Ching Kou, near Old Taochow; 3100~3400m, R. C. Ching 937, Aug. 26~31, 1923.

S. W. Kansu: Tao River basin, meadows on west bank of Tao, 9500ft, J.F. Rock 12882, July 1925.

— : Tao River basin, meadows back of Toyu, 8200 ft, J. F. Rock 12899, July 1925.

(前回引用したニューヨーク植物園所蔵の標本と同じ)

6. ケミヤマクワガタ *Veronica schmidtiana*

Regel ex Fr. Schm. var. *senanensis* (Maxim.)

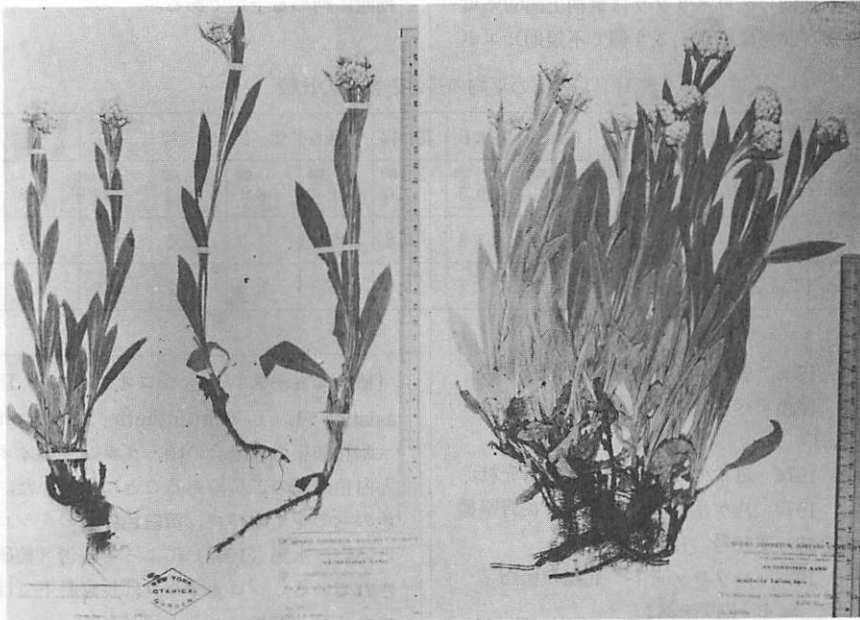
Ohwi f. *pilosa* T. Shimizu

キクバクワガタ(広義) *V. schmidtiana* は、葉の大きさや切れ込みの形、葉面の毛の有無や多少などに変化が多い。葉面の毛に注目した場合、北海道では無毛のエゾミヤマトラノオ var. *yesoalpina*

Koidz. ex Hara に対して有毛のケミヤマトラノオ f. *pubescens* (Hara) Yamazaki, 東北地方では無毛のバンダイクワガタ var. *bandaiana* Makino に対して毛深いミチノクワガタ f. *tomentosa*

Yamazaki が認められる。中部地方の高山にはミヤマクワガタ var. *senanensis* (Maxim.) Ohwi があるが、これは葉面に全く毛がないか、葉縁や葉の裏面中肋に散毛がある程度である。ちなみに、この群の茎、葉の毛は数細胞性の腺質の縮毛である。

ところで、長野県北部の雨飾山や天狗原山には、葉面に毛を密生するものがあるので、これを、ミヤマクワガタに対する有毛品と考え、ケミヤマクワガ



Anaphalis lactea Maxim. の写真、ともに J. F. Rock 12899 (GH)

タ f. pilosa として区別しておきたい。正式には後日発表する。

北安曇郡天狗原山, 1660m, 清水19909-type (SHIN); 同, 雨飾山, 1800m, 伊藤1276 (SHIN); 同, 雨飾山, 伊藤242 (SHIN)。

7. キタヨツバシオガマ *Pedicularis chamissonis* Steven var. *hokkaidoensis* T. Shimizu
ヨツバシオガマ var. *japonica* (Miq.) Maxim. は, 白山の標本に基いて発表された。白山を含む本州産のヨツバシオガマは, おしなべて, 花序は短かく無毛ないしほとんど無毛で, 花輪は2~7段につくのがふつうである。これに対し, 北海道産でヨツバシオガマとみなされているものは, 花序は長くて細毛を密生し, 花輪は5~12段につく点で本州のものとは異っている。そこで, 北海道産ヨツバシオガマを新しくキタヨツバシオガマ var. *hokkaidoensis* とし, この見解を「原色新日本高山植物図鑑」に発表した。

一方, アリュースクのウナラスカ島から記載されたエゾノヨツバシオガマ (エゾヨツバシオガマ) var. *chamissonis* はアラスカ半島, アリュースク・カムチャッカ・千島・サハリンなどに分布し, キタヨツバシオガマ同様に花序に毛が多いが, 上唇のくちばしが太短かい点がちがっている。エゾノヨツバシオガマは, 北海道からの報告もあるが, 検討が必要である。キタヨツバシオガマは, 本州のヨツバシオガマと北太平洋のエゾノヨツバシオガマの中間の位置を占める一群であるといえる。キタヨツ

バシオガマの巨大型がレブンシオガマ f. *fauriei* Petitm. である。

8. イワヒゲ *Cassiope lycopodioides* (Pall.) D. Don

イワヒゲはカムチャッカ・千島・サハリンから本州中部地方まで分布する東北アジア要素の高山植物である。手もとの標本をみる限り, 本州産のものは葉の長さは1.5~2.5m (主茎の葉が大きい), 花冠の長さが裂片を含めて4.5~5.5mm程度であるのに対して北海道産のものは, 葉の長さは2~3.5mm, 花冠の長さは7~8mmであった。一見して北海道産のイワヒゲは本州産に比べて大きい。この大きさのちがいが連続的であるかどうか確かめる必要がある。

9. コメバツガザクラ *Arcterica nana* (Maxim.) Makino

コメバツガザクラは, 1属1種の東北アジア要素の高山植物であり, カムチャッカから本州中部山岳までおよび奈良県大峰山や鳥取県大山に広く分布しているが, 種内変異についてはあまり知られていない。

このほど, 乗鞍岳頂上付近で採集した1枚の標本 (乗鞍岳 2500~3000m, 清水27052, SHIN) を検定したところ, これは, 花糸に微突起を密生し, 子房の毛は少ないものであることが分った。ふつう, コメバツガザクラは, 子房やさく果に白色の微毛を密生し, 花糸は平滑である。こうした形質が, 分類学的にどう評価されるべきか, 材料の集積を待って検討してみたい。

トガクシタンポポについて

清水 建美・岡崎 純子

T. Shimizu & J. Okazaki: Identity of *Taraxacum togakushiense*

トガクシタンポポ *Taraxacum togakushiense* H. Koidz. は, 小泉 (1934) によって戸隠山の標本 (小泉 72960 …正基準標本; 72861~72863 ……従基準標本) に基いて発表された。これは, 瘦果は狭卵形, 冠毛柄は長くて瘦果の2~3倍長, 総苞は黒緑色である点, 北海道産のクマモタンポポやタカネタンポポ, 本州産のヤツガタケタンポポやミヤマタンポポなどの高山生のタンポポと同じ仲間であり *Ceratophora* 節に分類される。

これより先, 北村 (1933) は, 立山の標本に基い

てミヤマタンポポ *T. alpicola* Kitam. を発表していたが, 1957年, 日本のタンポポ属をまとめた際, トガクシタンポポをミヤマタンポポに合一した。以来, 戸隠山のタンポポはミヤマタンポポとして扱われているのがふつうである。細胞学的には, ミヤマタンポポは, 竹本 (1954) や山口 (1974) などによって, 染色体数 $2n=24$ が報告され, 3倍体とみなされている。

最近, 森田 (1976) は, タンポポ属植物の標本の花粉を検定することによって, 2倍体および倍数体